

# 日本循環器学会

## 女性循環器医の勤務環境改善のための提言

近年、若手の女性循環器医数は増加してきており、2014年3月現在、日本循環器学会の女性会員数の割合は、30代では18.9%、20代では22.6%となっている。そのため、日本循環器学会男女共同参画委員会は、循環器分野における男女共同参画の推進を図り、男女共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、検討を重ねてきた。この度、「女性循環器医の勤務環境改善」のために、下記を提言する。

### 1. 出産・育児・介護との両立支援

- (1) 仕事と子育てとの両立を支援するため、院内保育所や病児保育室の積極的活用を推進する
- (2) 柔軟な勤務体制を推進する
  - A. 短時間勤務
  - B. ワークシェアリング
  - C. 特定業務の免除・軽減：残業、当直、時間外勤務（早朝、夜間、休日勤務など）、緊急呼び出し、オンコール、放射線業務など
  - D. 夜間の呼び出しの際の保育サービスの提供
- (3) 産休・育休・介護休暇中の代替循環器医確保のために、各地域の医師会などと連携して、代替循環器医師を確保するための運用システムの構築をめざす
  - 退職された医師の活用も図る
- (4) 上司や職場の理解をさらに促進するため、男女共同参画活動への病院管理者の積極的な参加を働きかける

### 2. キャリアアップの支援

- (1) 専門医の単位を取得しやすいように、各支部の地方会でも、託児サービスを提供する
  - 乳幼児のみならず小学生も預けられるようにする
- (2) 女性循環器医の出産・子育て後の復帰研修やスキルアップのためのセミナーを、各支部毎に定期的で開催する
  - 各支部単位で複数の病院の循環器内科が協力して、復帰研修やスキルアップのための教育・研修プログラム（例えばカテーテル、エコー、不整脈、救急など）を提供する
- (3) 女性循環器医の悩みや意見を聞く交流会を、各支部毎に年1～2回開催するとともに、仕事と子育てとの両立などに関して相談できる場を提供していく
- (4) 年次学術集会および各支部の地方会における女性座長の増員を推進する
- (5) 日本循環器学会の女性社員や女性支部評議員の増員を推進する